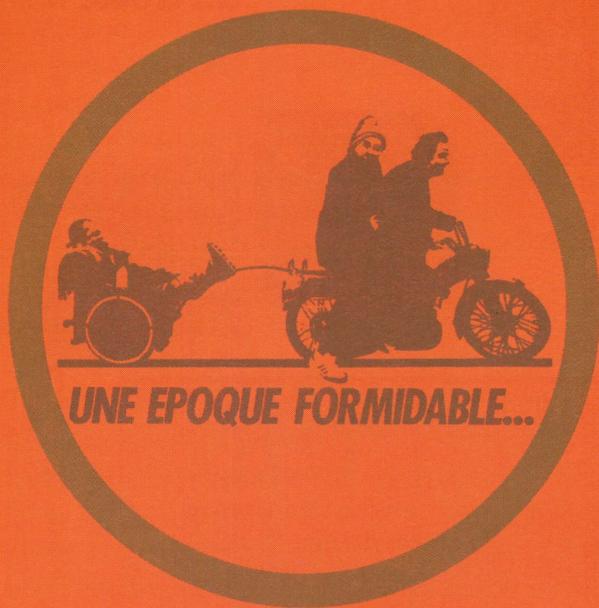


UNE EPOQUE FORMIDABLE



UNE EPOQUE FORMIDABLE...

パリだから、
ヨソとは違う。

パリの天使たち

リシャール・ボーランジェ ビクトリア・アブリル ジェラルール・ジュニョー
ティッキー・オルガド チック・オルテガ

監督：ジェラルール・ジュニョー 脚本：ジェラルール・ジュニョー／フィリップ・ロベス＝キェルヴァル 音楽：フランシス・カブレレ

撮影：ジェラルール・ド・バッティスタ 製作総指揮：アランドバルデュ 製作：ジャン＝クロード・フルーリー

1991年 フランス映画 カラー 96分 1X1.66Eスタ ©1991 ARTURO PRO CIBY2000 TFIFILMS PRO G.R.F.L.

配給：東宝映画 GAGA 暮キヤコ・コミュニケーションズ

放映：ユニフランス・フィルム・インターナショナル フランス大使館 協力：東京台仏学院

編集：ブラッスリー AUX BACCHANALES



UNE EPOQUE FORMIDABLE...

PARIS
EPOQUE
GOLD

GAGA

パリの天使たち

UNE EPOQUE FORMIDABLE...



INTRODUCTION

パリだから、ヨソとは違う
ホームレスは、どこから来て
どこへ行くのか?

生まれつきのホームレスは滅多にない。ホームレスになる前の生き方は千差万別。「明日は我が身？」の現代なら、人は皆ホームレスに注目するのが当たり前。「臭いものにはフタ」をせず、そのプロフィールをコメディタッチに描いていくのが、**ジェラルール・ジュニョー**作品。まさに、フランス映画ならではの「おかしいのに泣けてくる。カラクチなのにほのぼの。」とした仕上がり。ジュニョーの哲学はただ一つ、「人は追いつめられ、最悪の時が不思議に一番笑えるのだ。」

ドタンバのホームレス入門

ALA パリ風

セールスマンからそうってしまった男を演じるのは、ジェラルール・ジュニョー。パトリス・ルコントの「タンデム」に出演していたが、今回は彼の監督出演作品。あの「デリカテッセン」を凌ぐ人気となった。すでに上級クラスに位置するホームレスの親分を演じるのは「フランスの思い出」

「フランスの友だち」「ディーバ」そして「イヴォヌヌの香り」などで人気最高となり、娘ロマーヌの父親としても目が離せない、**リシャール・ボーランジェ**。上級VS初級としての“ホームレス魂”をぶつけ合う。

他には「パリ空港の人々」にも出演しているティッキー・オルガドが“下級ホームレス”を演じていて、フランス本場のホームレスそのもののリアリティーに迫る。アルモドバルガールからパリのマダムに変身した**ビクトリア・アプリル**のスチュワーデス姿は彼らと対象的に描かれる。

シャルル・ドゴール空港や、ノートルダム寺院など、パリの名所とそこに出没する彼らが、“今”のパリの横顔を写していく。さながら、ルイ・マルの「地下鉄のザジ」のように。

最悪転じて 最高の時間

原題の“Une Epoque Formidable”は、“素晴らしき時代”“最高の時間”“最悪転じて最高の時間”とも訳される。この原題の持つ意味合いを、この映画を見る全ての人にそれぞれ感じてもらいたい。

STORY パリの空の下、イビツな天使たちが
ウロウロ。彼らの“ひと味違う”人生。

ベテラン・セールスマンでならしてきたベルティエに、突然の解雇命令が! でも、そんなこと、男のメンツにかけても美しい愛する妻には言えない。それで嘘の上塗り。気づいた時には一人ぼっちでパリの空の下をさまようハメに。そこで今まで出会ったことのない男たちとめぐり会う。

CRITICS

ホームレス最大のパラダイス
とされているフランスで大ヒット!

この作品はただの偉大なコメディではない。この映画は、われわれの社会を正確に描写している。それも、深刻になりすぎずに、1時間半の間大笑いさせながら、である。(STUDIO)

急いで見よう。これは監督ジェラルール・ジュニョーの最高傑作である。そのうえ、非常に高水準である。滑稽であると同時に質の高いこの作品は、最高のコメディである。(PREMIERE)

COMMENTS

パリだから、ヨソとは違う。
“パリくずれ”のホームレスたち。

川の向こうには青空がある。ノートルダムの尖塔も見える。光と観光のパリを背に、孤独な夢に耽るホームレスまで、絵はがきになってしまう。パリとはそんな街だ。昔貴族で今ビジネスマン。ホームレスも様変わりしたものだ。しかし、自由人の気概だけはすたれていないようだ。サンマは目黒、ホームレスはパリに限る。いざとなったらセーヌの橋の下とハラをくくって、しがない渡世に励んでいる。(荻野アンナ氏 作家)

天気の良い、寒くない日ならば、野外のピクニックもステキだ。

食糧や日用品をそのまま青空の下に持ち出して、派手にやるならフローニュの森だとか、あるいは市内の公園のベンチでピクニックとしゃれてみる。セーヌ河岸も、だいぶ自動車道路に占拠されたが、まだ川面のほとりの散歩道も残っているし、シテ島の突端の公園もよい。もしも乞食が寄ってきたら、ハムの一切れでもおごってやろう。

いや、パリの乞食のことで、逆にワインの一杯でもめぐんでくれるかもしれない。
(新潮文庫刊「パリ旅の雑学ノート2冊目」より抜粋:玉村豊男氏 エッセイスト)



8/12(土)より夏休みロードショー

JR 新宿駅 中央東口前 三越ウラ
1un・2deux・3trois 新宿に3つのプレイシアター

新宿武蔵野館
シネマ・カリテ 1.2
03(3354)5670



- ♥特別鑑賞券 ¥1,400 好評発売中(当日一般¥1,800 学生¥1,500) 劇場窓口および都内プレイガイド、チケットぴあ、チケットセゾンにてお求めください。
- ♥特別鑑賞券付オリジナルTシャツ(K-ZELLE designed by 津村耕佑)¥3,900 7/10より劇場窓口および 自由が丘武蔵野館(☎03・3717・6341)、中野武蔵野ホール(☎03・3389・3301)、CINE CITY(☎03・5411・0838)にて限定販売!!
- ♥「パリの天使たち」をご鑑賞の先着10,000名様に、この映画に登場の、チュッパチャプス®プレゼント♡

●お問い合わせ: 巴里映画 ☎03・3498・0220